



認知症の方と薬局・薬剤師の関わり

薬局・薬剤師は、生活の場である地域において、早期発見及び地域の医療や相談・支援機関のつなぎなど（気づき・つなぎ）、地域の保健・医療・介護・福祉の関係者と連携し、認知症の方を支える地域の一員としての役割を担うとともに、薬の専門家として、認知症の方が安全かつ有効に薬物治療が受けられるよう、適切なアセスメントを行い、認知症の方を支えています。

- 薬局・薬剤師は、外来での服薬指導や、在宅訪問指導、一般用医薬品の販売を通して、本人や家族との聞き取り等から得られた情報により、認知症の早期発見の機会を捉えている。
- 地域住民が薬剤師・薬局とかかりつけの関係を持つことで、普段から薬剤師が状況を把握でき、状態変化にいち早く気づき、早期発見及び適切なつなぎを行うことが可能となる。
- また、医薬品の使用が必要な方には、かかりつけ薬剤師・薬局や健康サポート薬局※を活用していただくことで、服薬状況の一元的・継続的な把握や、きめ細かな薬学的管理や服薬指導が可能となり、医師をはじめとした多職種（病院薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー等）と患者情報を共有し、患者やその家族等をサポートしていくことができる。

※かかりつけ薬剤師・薬局の基本的な機能に加え、国民による主体的な健康の保持増進を積極的に支援する（健康サポート）機能を備えた薬局



認知症施策に関する取組について

予防に係る取組

- 薬局は地域に開かれた、専門職の常駐するリソースであり、受療以前からの身近な相談場所として、地域住民の健康意識の醸成に必要な情報発信に取り組んでいる。

理解の促進、人材育成(認知症対応力向上研修等)

- 認知症官民協議会では「認知症バリアフリー社会実現のための手引き」(薬局・ドラッグストア編)を作成・提供し、処方箋受付時のみならず、来局者が安心して利用できる環境整備に努めている。
- 都道府県薬剤師会では、都道府県と連携し、薬剤師が認知症の基本的な知識や、多職種との連携の重要性等を習得し、認知症者への薬学的管理や支援体制構築の担い手となるよう、薬剤師の認知症対応力向上研修が実施され、受講者数は現時点で4万人超となり、目標数値である6万人に向けて更なる推進を行っている。